令和７年第７回小林市議会定例会（12月議会）
一　般　質　問　通　告　書

質問者一覧

質問日	開始時間（予定）	発言順番	議員名	ページ
12月１日（月）	午前	①	原　勝　信	Ｐ２
		②	鎌　田　豊　数	Ｐ４
	午後	③	能　勢　誠	Ｐ６
		④	橋　本　律　子	Ｐ10
12月２日（火）	午前	⑤	野　田　利　典	Ｐ13
		⑥	松　嶺　勇　一	Ｐ15
	午後	⑦	小　川　真	Ｐ16
		⑧	堀　研　二　郎	Ｐ18
12月３日（水）	午前	⑨	髙　野　良　文	Ｐ20
		⑩	永　野　雅　己	Ｐ21
	午後	⑪	大　迫　み　ど　り	Ｐ26
		⑫	有　木　将　吾	Ｐ27
12月４日（木）	午前	⑬	押　領　司　剛	Ｐ28
		⑭	竹　内　龍　一　郎	Ｐ29

１２月１日（月）　　発言順番　１　　原　勝信　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ **子育て施策について**	国が少子化の流れを食い止めるために打ち出した「こども未来戦略」。その柱となるのが来年度から段階的に始まる『子ども・子育て支援金』である。支援金は児童手当の大幅な拡充、妊婦への支援給付、こども誰でも通園制度、共働き・共育てを後押しする給付といった年3.6兆円規模の子育て政策を支えるための財源になる。また、「こども未来戦略」は2023年に策定され、本年４月からはさらに充実されている。 そこで、本市の令和７年の出生の現状並びに令和８年の出生見込数について確認し、子育て施策について以下のとおり伺う。	市長 教育長
（１）若者・子育て世帯のライフステージに応じた切れ目ない支援について	若い世代が希望どおり結婚し、希望する誰もがこどもを持ち、安心して子育てできる社会、こどもたちが笑顔で暮らせる社会の実現が重要である。若者や子育て世代への改築等の住宅支援や家賃補助の考えについて、また、公営住宅をリノベーションし、若者や子育て世代が優先的に入居できる居住環境等の整備について伺う。	
（２）放課後児童クラブについて	放課後児童クラブは日中に仕事等で保護者がいない家庭の小学生に適切な遊びと生活の場を提供する場所であり、対象は市内の小学校に就学する１年生から６年生までの児童となっている。毎年利用者が増加傾向にあることから、負担額の軽減や利用時間の延長について伺う。	
質問事項２ **校区・地区社協について**	小林市議会市民厚生委員会では10月28日に『小林市における地域福祉の推進状況及び社協事業』をテーマに、小林市社会福祉協議会との意見交換会を行っている。意見交換会での主な質疑・答弁の中から本市の対応について伺う。	市長
（１）校区・地区社協の未設置区における市の対応について	校区社協は小学校区単位で、地区社協は区単位で作られている地域住民の自主組織である。小林市内に21の校区・地区社協があり、それぞれの校	

１２月１日（月）　　発言順番 １　　原　勝信　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	区・地区社協が地域の支え合い（おかげ様、お互い様）活動を行っているが、未設置区における市の対応を伺う。	
（２）福祉協力員の人材を増やす取組について	福祉協力員は、地域福祉に関心があり、福祉活動に理解のある住民の中から、区長の承認により選任され社会福祉協議会会長が委嘱する。主な役割としては、身近な地域での見守り活動を行いながら区長や民生委員児童委員などの関係機関と連携する地域のアンテナ役である。福祉協力員の人材確保に向けた市の支援について伺う。	
質問事項３ 観光戦略について	小林市観光振興計画は令和４年３月に策定され、令和８年度までの計画となっている。持続可能な観光地域づくり、観光消費額の拡大、地方誘客促進、インバウンドのさらなる見込み等、戦略的な取組が重要となる。観光戦略と合わせ、2027年開催の国スポ・障スポに向け来年度はリハーサル大会も開催されることから本市への経済波及効果について伺う。	市長 教育長
（１）小林市観光振興計画について	持続可能な観光地域づくり、観光消費額の拡大、地方誘客促進、インバウンドのさらなる見込み等、戦略的な取組並びに次期計画について伺う。	
（２）国スポ・障スポ開催における本市への経済波及効果について	2027 年の本大会や来年度のリハーサル大会と合わせ、強化合宿やトレーニングにおける本市への経済波及効果の積算について伺う。	
（３）スポーツを活用した観光の推進について	地域資源を活用したスポーツ合宿等のＰＲ及び誘致の推進や宿泊施設等と連携したプランの造成について、また、スポーツイベントの開催及び支援について伺う。	
質問事項４ 農畜産業における高温対策について	農業分野における高温対策並びに畜産業における高温対策について、また、設備支援や補助制度について伺う。	市長

１２月１日（月）　　発言順番 ２　　鎌田　豊数　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ **地域共生社会の推進について**	人口減少と少子高齢化が進み、また地域のつながりが希薄化する中で、地域課題も複雑化・多様化している。社会福祉法が改正され、現在、包括支援体制の整備が進められているが、市における現状等について次のとおり伺う。	市長 教育長
（１）重層的支援体制整備事業について	重層的支援体制整備事業は市町村の任意事業となっているが、この事業の目的と事業のポイント、また、どのような体制で実施されているのか、進捗状況や課題、今後の展開について伺う。	
（２）市と社会福祉協議会との連携について	市においては社会福祉協議会と相互に連携・協力し、住民ニーズの把握と地域の特性にあった施策の推進を図ることが重要と考える。どのように連携しているか伺う。	
（３）視覚障がい者の移動やコミュニケーションの支援について	同行援護は障害者総合支援法に規定される障害福祉サービスである。会議や病院での検査などでヘルパーが待機している時間は報酬算定の対象になるのかどうか伺う。また視覚障がい者が生活する上で必要な機能が搭載されたスマートフォン及びタブレットは日常生活用具に該当し、補助があるのかどうか伺う。	
質問事項２ **循環型社会の構築について**	従来の大量生産・大量消費の経済システムから脱却し、資源を大切に使い、無駄を出さずに再利用・再生する循環型社会を構築することは、地球温暖化や資源の枯渇を防ぎ、持続可能な社会を形成し、未来を守ることにつながる。市における取組状況等について次のとおり伺う。	市長 教育長
（１）ゼロカーボンシティの取組について	本市は令和４年６月にゼロカーボンシティを宣言し様々な取組を実施しているが、これまでの活動をどのように検証しているか、また課題と今後の取組について伺う。	
（２）ごみ行政の課題と対策について	本市ではごみの減量化とリサイクル推進に取り組んでおり、令和４年度の市民１人１日当たりのごみ排出量は 399 グラム、家庭ごみのリサイク	

１２月１日（月）　　発言順番 ２　　鎌田　豊数　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	ル率は57.4%と県内でも上位にある。市民の努力によるものであるが、転入してきた人や若い人たちには十分にその意義が理解されていない場合がある。ごみ行政の現状と課題、今後の取組を伺う。 　また、プラスチック資源循環法の施行により、プラスチックごみの処理見直しがあるか伺う。 　さらに、紙おむつのリサイクルの検討や最終処分場の延命措置、廃炉解体、市民負担の軽減や循環型社会実現のための意識改革について伺う。	
（３）ＺＥＢ化の推進について	慈敬園のＺＥＢ化改修工事により、光熱費の削減やCO_2削減効果が期待されるが、具体的な効果について伺う。 　また、今後の公共施設の整備や改修においてＺＥＢ化にどう取り組むのか伺う。	
質問事項３ 　地域公共交通の今後の方向性について	人口減少と高齢化が進行し、公共交通の維持は厳しい状況にあることから、市としての今後の方向性について伺う。	市長
（１）コミュニティバス（小林地区・野尻地区）の現状と課題について	現状をどのように分析しているか。またデマンド交通の実証実験が終了したが、その成果をどのように分析しているか。費用対効果や利便性の観点から、コミュニティバスの今後の在り方についてどのように協議していくのか伺う。	
（２）高齢者の移動手段の確保について	国土交通省はバス停から500m以上離れた地域は交通空白地帯としており、高齢者にとっては生活の利便性や健康維持の観点からも重要な問題となっている。対象人口の把握や対応について伺う。 　福祉タクシー券の活用も含めて、高齢者の移動手段の確保について伺う。	

１２月１日（月）　　発言順番 ３　　能勢　誠　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ **不登校対策と多様な学びの保証について**	全国的に不登校が過去最多となる中、本市でも長期欠席・不登校傾向の児童・生徒が増加している。不登校の背景には、学習の遅れ、友人関係、教室環境、家庭事情、発達特性、精神的負荷など複合要因が絡み、学校のみでの対応には限界がある。第３次小林市総合計画（素案）が示す「多様な学び」「子どもの権利」「家庭・学校・地域による協働支援」を実現するためには、①適切なアセスメント体制の構築、②学校外の居場所づくり、③民間支援団体との協働、④保護者支援の体系化、⑤教育委員会内部の連携強化が不可欠である。本市の現状と今後の包括的支援方針を伺う。	市長 教育長
（１）豊かな学び支援室の役割と今後の強化方針について	豊かな学び支援室の現状・成果・課題を踏まえ、体制強化、専門性確保、民間団体や家庭との連携の方針について伺う。	
（２）不登校児童・生徒のアセスメント体制強化と関係機関との連携について	不登校の要因を分析するアセスメント体制、学校・福祉・医療・地域支援者との連携強化について伺う。	
（３）学校外の居場所および民間支援団体との連携について	学校外で安心して過ごせる居場所づくり、民間支援団体との協働体制、情報共有の仕組みについて伺う。	
質問事項２ **自治公民館を核とした地域拠点づくりについて**	人口減少・高齢化が進む中、地域コミュニティの希薄化、地域担い手の減少、自治会加入率の低下などにより、地域の拠点となる自治公民館に求められる役割は増大している。一方で、公民館は老朽化が進み、維持管理費の負担は地域ごとに大きく異なり、財政力の弱い地区ほど運営が困難になる「地域格差」が顕在化している。第３次小林市総合計画（素案）が掲げる「地域コミュニティの再構築」「地域拠点の持続可能性」を実現するためには、市として①老朽化状況の客観的把握、②地区格差への財政的支援、③維持管理の新たな仕組みづくり、④担い手不足を補う支援体系の整備	市長

１２月１日（月）　　発言順番 ３　　能勢　誠　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	が必要である。自治公民館の現状認識と市の支援方針を伺う。	
（１）自治公民館の老朽化への対応と支援方針について	老朽化状況の把握、施設の長寿命化や更新に対する支援について伺う。	
質問事項３ 自主財源の強化と官民連携の高度化について	本市の市税収入は直ちに急減しているわけではないものの、人口減少・社会保障費の増加・公共施設の老朽化と更新費増大など、将来的な財政硬直化は確実に進行すると見込まれる。地方自治体が「自ら稼ぐ力＝自主財源」を確立することが、今後の地方行政の持続可能性に不可欠な取組であると言われている。特に、①ネーミングライツによる維持費削減と歳入確保、②未利用の広告媒体の収益化、③企業版ふるさと納税の戦略的活用、④民間企業側からの提案を受ける逆プロポーザル方式などの将来的検討など、多様な財源確保手法を統合的に体系化する必要がある。本市として、自主財源確保の現状、課題認識、今後の方向性について伺う。	市長
（１）公共施設へのネーミングライツ導入について	ネーミングライツ（命名権）とは、公共施設や備品に企業名を冠する権利を販売する仕組みで、収入確保に加え、維持管理費の削減効果も期待できる。本市において公共施設や設備（公園、広場、トイレ、バス停、橋梁、遊具など）のネーミングライツ導入の可能性、対象施設の整理、企業側の需要、契約方式、維持管理費との関係、市としての導入方針を伺う。	
（２）未利用広告媒体の整理と広告事業拡大について	庁舎、図書館、屋外広告、清掃車、公用車、施設案内板などの未利用広告媒体の棚卸し、広告事業の拡大方針、収入見込み、市としての戦略的な取組について伺う。	
（３）企業ＣＳＲを活用した逆プロポーザル型連携について	逆プロポーザル方式とは、自治体が特定の公共サービスや課題に対し、民間企業からの自主的な提案（新規事業・サービス改善・公共施設活用案	

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	等）を受け付ける仕組みであり、ＣＳＲ（企業の社会的責任。自治体との協働事業にも活用可能な企業の社会貢献活動。）や企業版ふるさと納税と組み合わせることで、民間資金の導入を促す。企業側から自発的に提案を受ける逆プロポーザル方式の導入の可能性、提案を受けるための情報発信、受付体制、採択基準の整備など、企業との協働を促進する仕組みづくりの方針を伺う。	
（４）企業版ふるさと納税の活用強化について	企業版ふるさと納税の対象事業の発掘方法、企業向けの情報提供、寄附獲得に向けた戦略的な取組、体制の強化方針について伺う。	
質問事項４ **公共施設マネジメントと民間活力導入について**	多くの公共施設が更新期を迎え、従来の行政直営・単独更新では財政負担が急増し、持続可能な運営が困難になる。第３次小林市総合計画（素案）が示す「公共施設の最適配置」「施設の集約・再編」「官民連携の拡大」を踏まえ、ＰＦＩ、コンセッション方式、成果連動型委託（ＰＦＳ/ＳＩＢ）、包括管理、指定管理者の高度化などを戦略的に活用することが求められる。財政負担の軽減とサービス水準の確保を両立する公共施設運営の方向性を伺う。	市長
（１）ＰＦＩ導入可能性の検討について	ＰＦＩとは民間資金活用事業で公共施設の設計・建設・運営などを民間が一体的に担う方式で、民間の資金やノウハウを活用し、コスト縮減とサービス向上を図るものである。本市においてＰＦＩ導入の対象領域、スキーム、課題整理、リスク分担の考え方について伺う。	
（２）コンセッション方式の検討について	コンセッション方式（公共施設等運営権方式）とは、公共施設の所有権は自治体に残したまま、運営権のみを民間に設定し、管理・運営を任せる手法で、上下水道、温泉施設、空港などで全国的に導入が進んでいる。本市において温泉・観光施設など指定管理施設での運営権委譲の可能性と	

１２月１日（月）　　発言順番 ３　　能勢　誠　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	課題整理を伺う。	
（３）ＰＦＳおよびＳＩＢの導入検討について	ＰＦＳ（成果連動型委託：Pay For Success）とは行政がサービスを委託する際、「成果が出た場合のみ」費用を支払う契約方式で、事業の質を高め、財政リスクを軽減できる。また、ＳＩＢ（ソーシャル・インパクト・ボンド）とはＰＦＳの一形態で、民間投資家が事業費を先に拠出し、成果が出たときに行政が投資家へ費用を返還する仕組みとなっており、行政の初期負担を抑えつつ事業を実施できる。 本市において、ＰＦＳ/ＳＩＢの導入の可能性、対象事業、成果指標の設定について伺う。	

１２月１日（月）　　発言順番 ４　　橋本　律子　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ **小学校給食費の無償化について**	学校給食はただのランチではなく教育の一貫である。義務教育は無償とするという憲法の規定があり、国は給食費無償化について、「経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）」の中に「令和８年度予算の編成過程において成案を得て、実現する」と明記した。 小林市の給食費は,半額補助に加え物価高騰分を市が負担するというレベルの高いものであるが、近年は無償化に踏み切る自治体が増えてきている。本市でも、まずは小学校から、給食費を無償化する考えはないか伺う。	市長 教育長
（１）学校における給食と食育の重要性について	学校給食には、①福祉的側面、②産業的側面、そして、③教育としての側面がある。それぞれの視点からの学校給食の意義と、食育の重要性についての認識を伺う。	
（２）安心・安全なおいしい給食を	先月、総務文教委員会で野尻学校給食センターを視察した。学校栄養士の先生から、食数が少ないからこそできる対応があること、地産地消を進める上での問題点などを伺った。ネックはお金だという実態をどう捉えるかを伺う。	
（３）学校給食費の無償化について	本市でも、まずは小学校から給食費を無償化する考えはないか伺う。	
質問事項２ **学校の在り方について**	市内 12 の小学校区単位での「小林市立学校の在り方に関する意見交換会」が終わり、一区切りついたところである。学校の小規模化を問題とする「提言」に対して、少なくない会場で、現在の学校施設の修繕・整備を求める声が出された。 小林市の学校を魅力ある選ばれる学校にするために、今後どう進めていく見通しを持っているのかを伺う。	教育長
（１）「小林市立学校の在り方に関する意見交換会」の総括について	９月議会の一般質問で、前半６校を終えた時点での受け止めを尋ねたところ、12 校全て終わってからまとめを出すということだった。どのような	

１２月１日（月）　　発言順番 ４　　橋本　律子　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	総括をされたのかを伺う。	
（２）出された多くの問いや願いに、どのように答えていく考えか	小さな中学校につながる小学校では「他の学校ではどのような声が出されたのか」、大きな中学校につながる小学校では「自分たちには関係ない」といった質問や意見が出されていた。須木小学校会場では、「須木から学校をなくさないでほしい」という要望が強く出され、不登校への対応を求める声も多かった。これらの声をどう調整していくつもりなのかを再び伺う。	
（３）学校施設の老朽化への対応について	文科省は「学校施設が常に健全な状態を維持できるよう、適切に維持管理を行っていくことが必要」としている。本市の学校施設は、「適切な維持管理」を十分にしてきたと言えるのか、また、今後どう対応していく計画かを伺う。	
質問事項３ 「小野湖特設カヌー・ローイング競技場」予定地にある植栽について	2027 年秋に開催が予定されている国民スポーツ大会でカヌー及びローイング競技が行われる「小野湖特設カヌー・ローイング競技場（仮称）」を造成するために、小野湖畔にあった「かるかや」は全て解体され、10 月 31 日からリギング場と観覧席等の整備工事に入っている。 リギング場になる箇所は、元「かるかや」の建っていた土地であるが、多くの立派な樹木も植栽されている。これらの樹木をどうする予定なのか伺う。	市長 教育長
（１）ヤマボウシ・枝垂れ桜などの樹木の処遇について	すきむらんどは 1988 年に開業し、県内各地から移設した茅葺屋根の古民家「かるかや」のあった敷地には、見事なヤマボウシや枝垂れ桜などが植栽されている。それらの「旧須木村の財産」をどうする計画なのかを伺う。	
（２）敷地内の「卒業記念樹」はどうするのか	敷地内には、平成 29 年度の須木小学校・須木中学校の卒業生の記念樹と立て看板もあった。どこに移植する計画なのかを伺う。	

１２月１日（月）　　発言順番 ４　　橋本　律子　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項４ **認知症予防について**	厚生労働省は、認知症施策の基本的考え方を「認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら『共生』と『予防』を車の両輪として施策を推進」としている。 本市の認知症施策には、この２つのうち「予防」の視点が十分に盛り込まれているのかを問う。	市長
（１）認知症の「予防」について	厚生労働省の調査によると、認知症の発症率は65歳以上で12.3%、軽度認知障害が15.5%で、それに当てはまらない約72%の人は発症を「予防」したいと願っている。それに応えるために、本市ではどのような施策を実施しているか伺う。	
（２）第３次小林市総合計画に認知症「予防」の視点を	認知症の「予防」とは、「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味である。認知症を予防するためのさらに有効な手だてにはどういうものがあるかについて伺う。	
（３）補聴器装着の時期の重要性について	早期に補聴器を使い始めることで使い方にも馴れて効果をより早く実感でき、逆に使い始めるのが遅いと聴覚関連機能が衰え、ますます聴力が低下する可能性がある。このことをどう捉えるか伺う。	
（４）補聴器購入助成制度の新設について	全国の自治体では国の支援を待たず、補聴器購入助成に踏み出している。厚生労働省も今年度から「介護保険保険者努力支援交付金」評価指標の中に、「難聴高齢者の早期発見・早期介入に係る取組を行っているか」との項目を追加した。このことから、本市での補聴器購入助成への見解を伺う。	

１２月２日（火）　　発言順番　５　　野田　利典　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ **国際化推進について**	日本国内におけるインバウンドは、コロナ禍前の状況に戻りつつあり、外国人旅行者は増加の一途をたどっております。また、少子高齢化や人手不足により外国人実習生も増加傾向にあります。 市は国際交流と国際化の推進を掲げており、2023年９月の一般質問で外国人向け日本語教室、外国語教育の現状などを確認しましたが、その後の状況について伺います。	市長 教育長
（１）国際交流と国際化について	国際交流と国際化について、どのように進めているのか現状を伺います。	
（２）姉妹都市提携について	台湾との国際交流の進展について、また、海外の都市との姉妹都市提携の可能性について伺います。 県内９市の中で、８市は海外の都市と姉妹都市を提携されていますが、どう捉えているか伺います。 本市とネパールはニジマス養殖でつながりがあり、これまで、ネパールからも本市を訪問されるなど民間での交流がありますが、そのことについて本市の考えを伺います。	
（３）外国語教育について	2020年度から小学校３・４年生は外国語活動、５・６年生は外国語科授業が始まり５年が経過していますが、その効果と課題について伺います。 英語教育の推進として、英語検定の検定料補助を行っている自治体が増加していますが、本市での状況について伺います。	
質問事項２ **果樹農家の状況について**	本市の果樹農家では梨、ぶどうなどの生産が盛んであります。その分野に焦点を当て、以下のことについて伺います。 ・過去５年間の果樹農家の件数と観光農園数について ・後継者、新規就農者の状況について ・生産量の推移について	市長

１２月２日（火）　　発言順番　５　　野田　利典　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	・資材等物価高騰の影響と補助について ・ふるさと納税への返礼品利用状況について ・新燃岳噴火降灰の影響と降灰時の対応について	
質問事項３ **観光振興について**	小林市観光振興計画では観光ＤＭＯを軸に観光振興を推進していますが、以下のことについて伺います。 ・観光地別の入込客数の状況について ・観光客の動向分析について ・陰陽石と三之宮峡の管理状況について ・国スポ・障スポに向けて、具体的な観光振興策や展開について	市長
質問事項４ **災害対策について**	全国的に自然災害が起きており、想定外との声をよく耳にします。南海トラフ地震や台風、集中豪雨などに対し、各地域で災害対策の一環として、防災計画や防災訓練、備蓄品の多様化が求められる中、以下のことについて伺います。 ・地区別防災計画策定の状況と課題について ・宮崎県総合防災訓練が実施されたが、本市での内容や訓練の効果と課題について ・市主催で全市一斉の防災訓練や避難所運営訓練を実施する考えについて ・学校区や地区別での防災訓練、避難所運営訓練の年間の実施件数について ・備蓄品の地域分散の現状と今後について	市長
質問事項５ **地区体育館の状況について**	地区体育館の現状と今後の管理について伺います。 また、国スポ・障スポの大会中には、地区体育館を事前練習等で利用されるのではないかと考えますが、どのように対応されるのか伺います。	市長 教育長

１２月２日（火）　　発言順番　６　　松嶺　勇一　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ **公有財産の管理と活用について**	市が管理する施設の活用状況において様々な条件や環境によって使用されていない施設があるように思われる。そのような公有財産の管理と問題・課題について伺う。また、新たな活用方法等の考えがないか伺う。	市長 教育長
（１）教職員住宅の空き家化がもたらす課題	空き住宅となっている件数と状況、主な理由について伺うとともに、維持管理や修繕、解体する場合にどの程度費用が発生するのか伺う。また、家賃収入などの収益減少による影響について伺う。	
（２）教職員住宅を活用した地域創生の可能性について	空き住宅は『課題』であると同時に、『可能性』でもあり、使われていない教職員住宅を、地域の集会や子どもたちの放課後活動、地域おこし協力隊、若手教員、移住希望者の住宅として活用するなど地域資源として再生できる余地がある。市では『農村ＲＭＯ』『地域創生』への取組も進めているが、空き住宅を地域づくりの拠点として利活用することは『教育と地域の融合』の好例になると考える。利活用の可能性について伺う。	
質問事項２ **学校と地域との関わりについて**	学校が地域の防災拠点であるという観点からも、地域内に学校管理職が居住していることは、有事の際の初動対応において重要な意味を持っていると考える。この点からも、学校と地域の関わりを改めて見直す時期に来ているのではないかと考え、次のとおり伺う。	市長 教育長
（１）教職員と地域との関係について	校長先生や教頭先生が地域内に住まなくなったことにより、地域やＰＴＡとの関係にどのような変化があったと認識しているか伺う。また、教職員と地域との関わりをどのように位置付けているかを伺う。	

１２月２日（火）　　発言順番　７　　小川　真　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ **小林市の未来への投資と財政運営について**	11 月６日開催の全員協議会で第３次小林市総合計画（素案）の説明があり、人口減少対策・健幸都市・産業活性化がリーディングプロジェクトとして上げられていた。 これまでの人口減少対策の取組について確認するとともに、直近の令和６年度決算を経た上での財務内容の確認、未来への投資の方向性等について問う。	市長
（１）人口減少対策について	人口減少は全国的な課題となっているが、これまでの市の取組について、市長の見解を問う。	
（２）財政内容分析について	本市の財政は過去 10 年間で最も健全な状況であると思う。過去の決算カードを基に財政運営を振り返り、施設建設の償還金等の現状確認を行う。	
（３）歳入の見通し及び自主財源の確保について	歳入に関して問う。人口減少と共に人口のボリュームゾーンの世代が 75 歳以上となり、現在の高齢化率は約 38%となっている。市税や地方交付税交付金の見通しについて伺う。また、ふるさと納税の現状分析について確認を行う。	
質問事項２ **公共施設の今後について**	公共施設の今後について、次のとおり伺う。	市長 教育長
（１）健幸のまちづくり拠点施設に集約される施設について	健幸のまちづくり拠点施設の建設に伴い集約される施設について、処分の時期や方法、有効利用の可能性、市民意見の反映などを確認する。	
（２）学校施設の建て替えについて	学校施設建て替えの検討状況や時期について確認する。	
質問事項３ **地域医療について**	令和７年９月議会では病院事業会計への繰出金４億円を含む一般会計補正予算の提案があった。市立病院の現状として非常に厳しい財政状態であり、また、内科医不在のため医師の確保が最重要課題となっているが、今後の取組をどのように分析し対応して行くのかを問う。 また、本市の地域医療体制について伺う。	市長

１２月２日（火）　　発言順番　７　　小川　真　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
（１）市立病院の財政状況について	令和６年度病院事業会計決算の内容は、単年度で約 1.6 億円の赤字、年度末の未処理欠損金は約 14.4 億円で、企業債の未償還残も約 21.7 億円であった。今後の財政状況の見通しや経営改善策を問う。	
（２）市立病院の診療体制に対する市民の理解について	本年 10 月に本市議会が開催した「議員と語ろうかい こばカフェ２０２５」では、子育て世代の参加者から市立病院の診療に対する意見・要望が出された。入院治療と二次救急に特化した病院であることを説明すると概ね理解が得られたが、このような市立病院の役割を市民が正しく理解できるよう説明がなされているのか確認する。	
（３）安心安全な地域医療体制の確立について	本市を含む西諸地域にはお産に対応する病院がなく、また、子どもの急病に確実に対応できず遠方の病院受診を余儀なくされる場合もある。市民が安心安全で希望を持てる医療体制の構築について問う。	

１２月２日（火）　　発言順番 ８　　堀　研二郎　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ **文化・芸術・歴史をまちの誇りとして未来につなぐために**	文化・芸術・歴史は、小林市のアイデンティティを形成する一つとして、次世代に継承すべき重要な資源でもあります。本市においても継承者不足、子どもたちが身近に触れる機会の減少、新たな表現に挑戦する若者への支援体制不足などが課題となっていると感じます。総合計画における文化政策の位置づけ、継続的な支援体制を構築するための現状認識と取組、将来のビジョン等について伺います。	市長 教育長
（１）文化・芸術活動への支援体制と政策的位置づけについて	地域の文化・芸術活動は、市民の創造力を育み、地域の魅力と誇りを高める基盤でありながら、担い手不足、活動資金や練習・発表の場の確保など多くの制限と課題を抱えています。これらの活動を一時的な助成に頼るのではく、総合計画など市の政策体系の中に明確な位置づけを持たせ、持続的支援につなげる必要があります。現在の支援体制の実態と、政策としてどのように整理し強化する考えかを伺います。	
（２）文化・芸術活動の拠点施設整備について	地域の文化・芸術活動を支えるためには、練習・創作・発表を一体的に行える、市民ニーズにあった拠点施設の存在が不可欠です。しかし、現状では団体・個人が安定して利用できる場は不足しており、老朽化などハード面の課題が指摘されています。市民が日常的に文化・芸術に触れ、表現できる環境を整えることは地域の魅力向上と次世代育成にも直結します。市としての拠点施設整備の今後の計画や検討状況を伺います。	
（３）教育との連携・次世代への継承について	文化・芸術・歴史を未来へつなぐためには、学校教育との連携強化が不可欠です。地域の文化・芸能・芸術を子どもたちが実際に体験し、学び、地域の誇りとして理解する機会が十分であるとは言えません。学校と地域団体・専門家が連携し、体系的な学習機会や出前授業、芸術鑑賞の環境整	

１２月２日（火）　　発言順番 ８　　堀　研二郎　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	備がより一層求められると感じます。市として教育分野との協働をどのように進め、次世代への継承をどのような展望で捉えているかを伺います。	
（４）持続可能な文化行政への転換について	文化・芸術・歴史の振興は、単年度の補助やイベント頼みでは継続性が担保できず、担い手の減少や活動の停滞を招く恐れがあります。地域資源として文化を戦略的に位置づけ、長期的視点で財源確保、人材育成、官民連携を進める持続可能な文化行政への転換が求められます。市として、これまでの取組をどのように評価し、持続性を備えた文化行政への移行を進めることができるか考えを伺います。	

１２月３日（水）　　発言順番　９　　髙野　良文　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ **駅周辺中心市街地活性化拠点施設整備事業について**	小林駅にある中央ふれあい広場は文化・芸術・学び・チャレンジができる、五感で感じるみんなのアソビ場として整備が計画されており、今後、市民とのワークショップやアンケート等を通じて具体的な内容が検討される。子どもや高齢者、障がいの有無などに関わらず、小林市に生まれて良かったと思えるような多世代が楽しめる施設となるよう次のとおり伺う。	市長 教育長
（１）スケートパークの整備について	スケートボードは2020年東京オリンピックで初めて正式競技に採用されたスポーツの一種で、市内においても小中学生が公園周辺でスケボーをしているところを目にする。そういった子どもたちが思いきりプレーできて楽しめるスケートパークの整備について、検討する考えがないか伺う。	
質問事項２ **高齢者福祉について**	高齢者の移動支援や健康増進について、次のとおり伺う。	市長
（１）福祉タクシー料金助成事業について	令和６年度における福祉タクシー券の利用率は、小林地区が77%、野尻地区が69%、須木地区が43%と、利用率が伸び悩んでいるが、その要因について伺う。 また、利用率向上の対策や助成対象年齢を引き下げるなどの要件緩和について、検討されているか伺う。	
（２）高齢者の健康増進について	鹿児島県南さつま市においては、シニア世代の健康増進及び生活支援を図るため、１冊の券で温泉、はりきゅう、タクシー、バスが利用できる「ＪＳＫチケット」を65歳以上の方に交付している。小林市においては、健幸のまちづくりを推進しているが、現在の福祉タクシー券の名称と利用範囲を変更し、高齢者の各種サービスに利用できるようにする考えはないか伺う。	

１２月３日（水）　　発言順番 10　　永野　雅己　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ **地域間格差のない公平なごみ行政の再構築について**	本市のごみ収集・分別は、これまで自治会や地域住民の協力によって支えられてきた。しかし、地域ごとに運用方法が異なることから、自治会未加入世帯への対応、協力金の在り方、鍵付き集積所の管理など、市民サービスに実質的な差が生じている。 また、市の情報提供が十分でないため、「知らされていない」「急に変わった」といった声も多く、分別区分の変更が行われるたび、誤った排出や混乱、不法投棄の増加が懸念される。さらに、未回収ごみの多発、アパート住民への周知不足、地域負担の増大など、現行制度だけでは対応が難しい課題も明らかになっている。 本市は令和４年にゼロカーボンシティを宣言し、資源循環型社会の実現を目指している。そのためにも、地域任せにせず行政が主体的に関与した、公平で持続可能なごみ行政の再構築が必要と考える。以上の観点から本項目について伺う。	市長
（１）行政と地域の「役割分担と情報伝達」の再構築について	分別指導が行政主導から地域依存へ移行する中で、現場の苦情や課題が市に十分届かない状況があると聞いている。まず、市として現状をどのように把握しているのか伺う。 次に、ごみ行政の方針やルール変更について、市民・自治会への周知体制と、その伝達の効果検証をどのように行っているのか伺う。 また、ごみ分別区分の見直しに際し、廃棄物減量等推進審議会で市民意見をどのように反映するのか、また周知不足の声に対し、「誰に・いつ・どのように」伝えるのかについて伺う。 さらに、ごみに関する行政課題が多岐に渡る中で、関連する部署との連携の状況と、問い合わせ窓口の一本化やデジタル対応導入の可能性について伺う。	

１２月３日（水）　　発言順番 10　　永野　雅己　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
（２）地域依存と自治会任せからの制度転換について	ごみ集積所でのルール指導が地域住民の精神的負担となっている現状を踏まえ、行政としてどのような支援や評価を行っているのか伺う。 また、不適正排出が多発する地区の把握状況と、市が直接確認・是正する体制を検討する考えがあるか伺う。 さらに、集積所の設置・維持費が自治会により異なり、未加入世帯が利用料を支払うなど公平性の課題が生じています。公的サービスと自治会の責任範囲をどのように整理するのか、あわせて所有区分・費用負担・チェック体制の統一ルールを設ける考えを伺う。 また、自治会機能の低下が進む中で、自治会依存から一歩踏み込んだ制度設計を検討する考えを伺う。	
（３）多様なライフスタイル・高齢化に対応した柔軟な運用について	現行の「朝８時までの排出ルール」が夜勤・シフト勤務者や高齢者の生活実態に合わないとの声があるが、市として回収時間や排出方式の柔軟化を検討する考えがあるか伺う。また、高齢者・単身世帯の増加により指定袋での排出が困難なケースが見られる中で、福祉部門と連携した見守り支援や個別収集など支援策強化の考えを伺う。 加えて、他自治体（福岡市や東京都大田区）などで導入されている集中ステーション方式について、本市での治安対策や費用負担も含めた検討状況について伺う。	
（４）ごみ行政の「見える化」とエビデンス型施策について	ごみ問題の実態を把握するため、自治会加入率や排出実態などを外部委託により中立的に調査する考えがあるか伺う。 また、地域別の分別率や処理費用などのデータを市民へ公開し、透明性向上を図る「見える化」をどこまで進めるのか伺う。 さらに、ゼロカーボンシティの実現に向け、ご	

１２月３日（水）　　発言順番 10　　永野　雅己　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	み分別やリサイクルがどれだけＣＯ₂削減に寄与しているかを数値で把握する仕組みが必要と考えるが、市としての考えを伺う。	
質問事項２ **支援が必要な子どもへの切れ目ない支援体制の構築について**	近年、不登校やヤングケアラー、虐待、貧困など複合的な課題を抱える子どもが増えている。家庭や学校だけでは対応が難しいケースも多く、市においては、早期発見から支援への接続、18 歳以降の継続支援まで、一連の流れを切れ目なく支える体制づくりが求められている。 また、フリースクールや支援団体など学校外の学びとも連携し、多様な支援の選択肢を確保することも重要である。こども家庭センターを中心に、福祉・教育・医療・地域が連携し、調整機能の強化、支援の標準化、情報共有、市民周知など、全市的な支援ネットワークの再構築が必要と考える。以上の観点から本項目について伺う。	市長 教育長
（１）不登校児童・生徒への支援体制ついて	市内の不登校児童・生徒数の近年の推移と、その背景・要因の分析について伺う。あわせて、「豊かな学び支援室」内の「ふれあい学級」で実施されている支援内容、利用状況、支援効果について、また、子どもの多様な学びを尊重する観点から、学校外の学び（家庭学習・フリースクール等）を市としてどのように位置づけているか伺う。	
（２）フリースクール等との連携・支援について	フリースクール等の民間支援団体との連携状況と、市としての支援内容（情報共有・相談体制・予算措置）について伺う。 また、他自治体で行われている利用補助や経済的支援の事例を踏まえ、本市としての支援の考えを伺う。 さらに、フリースクール等への通所を出席扱いとする「登校カウント」制度の認定基準、説明方法、現場の課題や書類負担の軽減策について、市の見解を伺う。	

１２月３日（水）　　発言順番 10　　永野　雅己　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
（３）支援が必要な子どもへの支援と切れ目ない支援体制の現状と連携体制について	ヤングケアラーや虐待、貧困などに関する相談件数や支援件数の推移を、市としてどの程度把握しているのか伺う。あわせて、こども家庭センター、福祉課、学校、医療、地域包括支援センターなどの関係機関が、どのような連携体制を構築しているか、また情報共有や支援につなぐ一連の流れについて伺う。	
（４）支援の継続と課題について	家庭の課題を早期に把握するため、行政・学校・地域での発見体制や研修の実施状況について伺う。また、18 歳以降も支援が途切れないよう、就労・住まい・福祉サービスにつなぐ継続支援の仕組みをどのように整備しているか伺う。 さらに、貧困・虐待などが複合するケースに対し、ワンストップで支援できる体制があるのか、生活再建や学習支援、就労支援との連携状況について伺う。	
（５）今後の方向性と体制強化について	切れ目ない支援を実現するため、関係部署を横断的に調整する専任コーディネーターの配置状況、または今後の検討状況と財源見通しについて伺う。あわせて、関係機関が共通理解を持って対応するための支援マニュアル整備や合同研修の定期実施を、市としてどのように進める考えかを伺う。さらに、支援窓口を広く周知するため、学校配布物・ＳＮＳ・地域の会合などを通じた情報発信の取組状況と、その効果について伺う。	
質問事項３ **ＰＦＡＳ検出に伴う安全対策と市民への情報提供について**	昨年、本市において初めてＰＦＡＳが検出され、本年３月議会にて水質監視の強化と、市民の安全安心の確保について一般質問を行った。その際の上下水道課の答弁は「基準値内とはいえ検出は好ましい状況ではない」「国の動向を注視し、最低年１回の検査を継続する」とのことだった。 しかしながら本年８月、野尻地区の原水において再度ＰＦＡＳが検出され、その値は 92ng/L と	市長

１２月３日（水）　　発言順番 10　　永野　雅己　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
	国の暫定目標値を超過し、さらに県による周辺井戸調査では 200ng/L もの高い値が確認された。市民の命と暮らしを守る水の安全に関する重大な事案であり、改めて現状と今後の対策について伺う。	
（１）ＰＦＡＳ検出に対する市の認識と市民対応について	国の暫定目標値を超えるＰＦＡＳが検出された事案について、市長としての受け止めと市の見解を伺うとともに、住民説明会や情報公開の状況、市民から寄せられる不安や意見への対応方針について伺う。	
（２）水質監視体制・原因究明・除去対策の強化について	今後の水質検査の頻度や環境条件を踏まえた検査実施、市独自の緊急検査体制の構築方針に加え、汚染源の特定や県との連携、汚染範囲の把握、停止中水源の再稼働条件など水源管理の方向性、さらに除去技術導入の検討状況と国・県補助制度の活用見通しについて伺う。	
（３）市民への説明と健康相談体制について	全市的な情報提供の在り方、市民相談窓口や健康相談体制の整備状況、そして簡易水道や井戸水利用世帯への支援策など、市民の安心につながる具体的な取組について伺う。	

１２月３日（水）　　発言順番 11　　大迫　みどり　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ **第３次小林市総合計画の展望について**	令和８年度からの第３次小林市総合計画については、社会情勢が目まぐるしく変化する中で、本市を取り巻く状況も厳しさを増してきている。第２次小林市総合計画での課題を分析し、今後につなげる計画でなければならないと考える。特に力を入れなければならない課題について質す。	市長 教育長
（１）人口減少問題について	①本市における人口減少の分析から見えてくる課題について ②少子化対策について ③外国人市民との共生について ④高齢者支援について ⑤小中学校統廃合について ⑥須木・野尻地区の現状・課題・対策について	
（２）農業問題について	①農家戸数の減少と課題・対策について ②米高騰問題と本市の主食米作付け状況について ③本市における農業政策について	
（３）財政問題について	①本市の財政状況について ②予算編成の考え方について	
質問事項２ **えびの駐屯地ミサイル配備について**	本市に隣接するえびの駐屯地にミサイルが配備される。どこまで把握しているか、また市民への影響をどう考えるか問う。	市長

１２月３日（水）　　発言順番 12　　有木　将吾　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ **忠霊塔の維持管理について**	戦後 80 年を迎え、戦争の記憶を風化させない取組が重要と考える。そのような中、市内の各地区にある忠霊塔の管理状況、民間による維持管理の認識、今後の市の関わり方について伺う。	市長
質問事項２ **教育行政について**	小林市立学校の在り方について、学校の在り方に関する意見交換会での声や、統合された場合の中学校の取扱い、方針決定後のスケジュールについて伺う。 また、音読について、声に出して読むことで脳の活性化につながり、子どもたちの成長にも良い効果が期待されるが、小学校での音読の状況を伺う。 さらに、食育について、現在の取組内容及び今後の展開について伺う。 また、少子化が進行する中、児童・生徒の学校教育に係る教育費の今後について伺う。	市長 教育長
質問事項３ **災害避難所の対応について**	災害用トイレの備蓄状況、災害協定の有無や内容、今後の課題について伺う。 また、高齢者等の長期に渡る避難所生活を想定した歯科医師会との連携や支援について、その内容、市備蓄品目の追加の考えを伺う。	市長

１２月４日（木）　　発言順番 13　　押領司　剛　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ 　令和８年度予算編成方針について	令和８年度予算編成方針について次のとおり伺う。	市長
（１）骨格予算の影響について	来春の市長選挙に伴い令和８年度当初予算は骨格予算となるが、住民サービスの停滞が起きないようどのような対応をするのか。	
（２）令和７年度当初予算における一般財源額 90%枠の影響について	令和８年度は、対令和７年度当初予算の 10%マイナスシーリングを実施する方針であるが、市民サービスへの影響について伺う。	
（３）行財政改革の具体策について	職員の業務量が増加する中、人員の再配置やＡＩの導入などの効率化に向けた対策の検討状況等について伺う。	
質問事項２ 　教育行政について	教育行政について、次のとおり伺う。	市長 教育長
（１）教職員の資質向上の取組について	教職員の資質向上の取組はどのように行われているのか伺う。	
（２）不登校対策の取組について	民間団体が行う不登校対策の取組について、市はどのようにして連携し、また、支援を行っているのか伺う。 また、豊かな学び支援室に設置されている小林市教育支援センターの状況について伺う。	
（３）小規模特認校について	現在の小規模特認校の状況及び転入学条件を現行から広げる考えはないか伺う。	
（４）宮古島市主催の移動平和展「戦争と子どもたち～学童疎開～」について	戦時中、宮古島市から本市へ学童疎開が行われたことについて、本年 11 月７日から９日にかけて中央公民館で企画展が開催された。これを契機に宮古島市と交流を持つ予定があるか伺う。	
質問事項３ 　市内での車両展示イベントの開催について	えびの市や高原町では車両展示イベントを開催しているが、市内での開催状況や誘致の考えはないか伺う。	市長

１２月４日（木）　　発言順番 14　　竹内　龍一郎　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項１ **公共施設の管理について**	市の施設は古いものでは建設から 40 年を経過しているものも多く、老朽化対策が課題となっている。 そこで、健幸のまちづくり拠点施設整備の進捗状況や集約施設の今後の方針、須木庁舎及び野尻庁舎の状況について伺う。	市長 教育長
（１）健幸のまちづくり拠点施設整備の進捗状況について	現在建設中の拠点施設の進捗状況と施設までの交通アクセスの計画状況を伺う。また、現在使用されている集約施設の中には、拠点施設完成後５年以内に解体又は譲渡の計画があるが、現在の協議や検討状況を伺う。	
（２）須木庁舎の状況について	須木庁舎の老朽化に伴う移転などの協議や計画はないのか伺う。	
（３）野尻庁舎の状況について	野尻庁舎においては、小林市野尻庁舎改築市民懇話会から「小林市野尻庁舎改築並びに複合施設化に関する提言書」が提出されているが、現在の協議の状況と市としての考え方を伺う。	
質問事項２ **地域医療の充実について**	西諸の中核病院としての重要な役割を果たしている市立病院であるが、がん治療対応の現状、宮崎大学への寄附講座の現状と今後の計画について伺う。	市長
（１）がん治療体制について	がん治療対応についての現状、特に高齢の患者や一人暮らしの患者への対応について伺う。また、本年６月議会で一般質問した尾道方式のすい臓がん検診の検討について伺う。	
（２）宮崎大学の寄附講座について	医師不足で苦慮している小林市としては、寄附講座により医師の派遣をして頂いていることは大変感謝すべきである。寄附講座の効果は大きいものと考えるが、具体的な効果・影響をどのように評価されているか。また、来年度以降の寄附講座の予定について伺う。	

１２月４日（木）　　発言順番 14　　竹内　龍一郎　　議員

質 問 事 項	質 問 要 旨	質問の相手
質問事項３ 働き方改革と会計年度任用職員の処遇について	窓口業務の時間短縮の検討状況及び会計年度任用職員の処遇等について伺う。	市長
（１）窓口業務の改善について	働き方改革の一環で県内各市が窓口業務の時間短縮を進めてきているが、本市としても窓口業務の短縮を検討されているのか。実施した場合の効果と市民への影響を伺う。	
（２）会計年度任用職員の処遇改善について	会計年度任用職員の現在の人数と職員全体に占める割合について、また、給与や勤務時間、休暇制度などの処遇について伺う。あわせて、会計年度任用職員制度と人事院勧告制度についての考えを伺う。	